

第1回学校保健委員会 報告

7月6日（水）に第1回学校保健委員会を開催いたしました。学校医や学園の職員の方、保護者の代表の方、本校職員が集まり、健康診断の結果や学校環境衛生検査の結果についての報告、性教育に関する協議を行いました。



本校では、毎年担任にアンケートを実施しながら保健指導を進めています。最近では、性に関する指導を望む担任が多く見られるようになりました。性に関する指導は学校だけではなく、保護者の方の御協力をいただくことも多いため、今回は協議のテーマを「**学校と家庭が連携した性教育について**」と設定しました。皆様からたくさんの御意見や御助言をいただきましたので、簡単ではありますが、紹介させていただきます。

保護者より（悩みや家庭での指導など）

- 家庭での性に関する指導について悩んでいる保護者は多くいる。
- 同性の教師や父親に相談しながら取り組んでいる。学校でどんな性に関する指導をしているのか知りたい。
- 自慰行為は「だめ。」なことではない。適切な場所で行うことを伝えている。
- 性教育は他人とのコミュニケーションであり、生き方をひっくるめた教育であると思うので、小さい頃からコミュニケーションをとって対応できるとよい。



学校医より

○性の問題は相談にあがりやすい。障がいの程度によっても違うが、基本的なところとしては、ルールを覚えることを共通の目的としてよい。障がいのある子どもの性教育について分かりやすい本も出版されているので活用できるとよい。

○大人になる過程で思春期は体が変わり、自分でもわからない衝動があるが、それは普通のことである。保護者、教師が経験をもって伝えればよい。

○社会や相手に迷惑をかけなければ性に関することはパーソナルなことなので、人それぞれでよい。人との関係性が曲がらずに育っていけるようにサポートしていくことが大事である。



学校では、学校医の先生に御助言をいただきながら、御家庭や学園と連携し、情報を共有して性に関する指導に取り組んでいきたいと思っております。

